

うごく うごく わたしのおもちゃ

～みじかなものでおもちゃを作ろう！～

本単元と関連する9年間で育成する資質・能力

伝え合う力

日 時：令和5年11月17日（金）13：00～13：45

1 指導の方向性について

○単元観

【2学年テーマ 生き方学習】

本単元は、学習指導要領内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を受けたものである。

身近にある色々な材料を使って、動くおもちゃを工夫して作ったり、遊び方を工夫してみんなと遊びを楽しんだりすることができる単元である。

また、おもちゃを工夫してうまく作ることができたときの喜びや、友達と工夫して楽しく遊んだり異学年に楽しんでもらったりする時の達成感を味わうことで、今後の実生活をよりよくするために、工夫する力を育てることを狙いとしている。

○児童観（第2学年 23名）

【児童の実態】

2年時の生活科の学習では、野菜を育てる学習を通して、今まで育てたことのある植物や友達の野菜の成長具合を比較して、成長の変化についての気付きを共有する活動を行った。気づきを共有する学習に取り組んだことで、自分の学習を振り返る力を伸ばした。

【9年間で育成する資質・能力と関連する実態】

「伝え合う力」

○体験的に活動する時間では、どの児童も、自分なりに目的をもって活動している。

○学習の振り返りをする時には、「できたこと」や「がんばったこと」を見付けることができる児童が多い。

△自分の考えや思い発表したり記述したりするときに、それを言語化することが苦手な児童がいる。

△自分の考えを伝える時に、物事を順序立てて説明することや、自分の考えを言葉にすることが苦手な児童がいる。

○指導観

【本単元における指導の方向性】

○ 児童主体の『探究的な学び』を実現させるために、以下の点に留意して指導を行う。

- ① 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにするために以下の点に留意して、学習を進める。
 - 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため、「見付ける・比べる・たとえる・試す・見通す・工夫する」などの多様な学習活動を行うようにする。
 - 身近な生活に関わる見方・考え方を生かすために、調べ学習の際に情報機器を適切に活用するようにする。また、インターネットでの情報収集だけでなく、自身の生活体験からも収集し、工夫しておもちゃを作ったり、ルールを考えたりできるようにする。
 - 児童が自立し生活を豊かにするために、他の児童が自分たちで作ったおもちゃで遊べるような計画を立て、多様な人々と触れ合い、共に生きていくなどの考え方を育めるようにする。
- ② 児童の学びがより深いものになるために、振り返りを活用して、児童のつまづきや課題の解決に向けた学習計画を立てるようにする。その際、自分の学習成果と、友達の学習成果を交流する時間を設定し、「見付ける・比べる・たとえる・試す・見通す・工夫する」などの振り返りや交流の視点を明確に示すようにする。
- ③ 国語科「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の学習と関連付け、おもちゃの作り方や遊び方を聞く人が分かりやすいように順序よく説明する方法を学び、相手意識をもって自分の考えを伝える力を身に付けさせていく。
- ④ 探究的な学びの実現に向けて、本学年では、探究的な学習の素地を養うようにする。生活科を中心に、児童の気付きや疑問、困っていること等を共有し、その解決に向かって話し合う活動を設ける。また、実際の活動では、協働的な学習を設けることで、新たな課題を見付けたり、自分の考えを言語化したりできるようにする。そうしたサイクルを繰り返し行っていくことを意識付けしていく。